

『いやしから救いへ』 エレミヤ書 33章6～8、14～16節 2015.7.26(主日礼拝説教より)

『見よ。わたしはこの町の傷をいやして直し、彼らをいやして彼らに平安と真実を豊かに示す。』 エレミヤ書 33:6

◆エレミヤ 33 章に2度『見よ(6,14 節)』がある。「見よ」とは私達の信仰を呼び覚ます言葉。最初の『見よ』で神は、自分から離れて祝福を失った私たちに対して告げる。『見よ！あなたがたを癒し、直し、回復する』と。聖書は、神から離れた罪人を病人に喩え、罪から救うキリストは医者だと言う(マタイ 9:12～13)。病はほおっておけば命取りとなる！罪(ハマルティア)の直訳は『的外れ』である。人は生まれたときに神から、幸せを実感する能力を与えられた。その能力とは、あらゆる境遇の中で神を認め、従い、感謝(賛美)する力のこと。しかし人は、その創り主から外れてしまい、神を忘れ、謙虚さを失い、自分の思うように生きる道を選んでしまった。人生は思うようにいかないことばかり！だから神から離れた罪人は、当然、不平不満、恨みと怒り、失望落胆の空しい人生へ…。◆ある日イエスは会堂で『貧しい者に良い知らせを告げ、傷ついた人を癒し、囚われ人を解放するために来た(イザヤ 61:～3)』と朗読し、『今日、この聖書の言葉が、あなたがたが聞いたとおりに実現した！(ルカ 4:18～21)』と宣言された。あなたは、このキリストの御声を聞いただけだろうか？癒され、捕らわれから解放される喜びの知らせを！マタイ 8:17 で、イエスの生涯はイザヤ書 53:4『彼は私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った』の実現だと告げる。

◆次の『見よ』は、『見よ！その日が来る…ダビデの若枝が芽生え…「主は私達の救い」と呼ばれる日が…(14 節)』との預言。その日とはいつなのか？約 600 年後に誕生した初代教会は、このダビデの若枝とはイエス・キリストのことだと気づいた。御使いがヨセフに語る『マリヤは男の子を生む…その名はイエス！この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方…その名はインマヌエルと呼ばれる』マタイ1:21～23だと。イエスだけが私たちの味方であり、常に寄り添い、全てを分かったださる方。この方だけが私たちの患いと病を身に引き受けて下さる。このイエスを信じる者だけが、癒しと解放の喜びを自分のものとして受け、その喜びを伝える者としていただけるのである！